

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	01	C a m i n h o推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	男女共同参画の推進に伴い、女性の就業率等が向上してきているが、子育て中の女性など、仕事のバランスに不安の声は多く、女性の心の面やライフデザイン等に寄り添った支援がこれからも必要である。				
	事業目的	（１）対象 美濃加茂市で暮らす人・学ぶ人・働く人 （２）目的 美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「カミーノ」に掲げる「女性が笑顔で輝くまち」のための事業推進 女性が笑顔でいられる、女性が輝ける、女性の夢が叶えられるまちの実現				
	事業概要	美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「カミーノ」に掲げる「女性が笑顔で輝くまち」を実現する。 ・みのかも女性活躍支援センター「Re:01a[リオラ]」の運営。 リオラが「みのかも健康プラザ」へ移転。新たな環境でサービス提供を実施。 ・キャリアデザイン、キャリアアップ等のセミナー、相談の実施。 ・カミーノ推進プロジェクトの実施。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	3,969 2,281	5,058 3,746	3,365 1,861	3,837	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		50 / 3,300				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	女性活躍支援センター相談件数	目標値	150	150	150	180	190
		実績値	191	245	257		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	充実したライフスタイルを送る女性の割合（市民満足度調査）	目標値	72	72	73		
		実績値	63.3	63.7	54.9		



実 績	実 績	・みのかも女性活躍支援センター「リオラ」の運営 ・リオラで行う講座の企画実施 相談件数257人・講座参加者数170人・来訪者数1490人・新規就業者数18人・起業家数4人 ・「働く女性のためのキャリアアップセミナー」を2回開催し、各回11人ずつの参加があった。 ・高校生が自分で責任を持って選択し行動できる大人へのはじめの一歩を踏み出すための「ライフデザイン講座」を開催し、8人の参加があった。
	効 果	女性活躍支援センターの運営、セミナー等の実施により、働くことや子育てなど、女性を取り巻く課題に対し、すこしでも不安を解消することで、いきいきと暮らす、働くことに繋げることができる。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	女性活躍支援センターの相談件数は少しずつだが増加傾向にあり、支援が必要な方への対応ができている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	市民意識調査における意識の向上は十分とは言えない。支援がどのように効果を発揮しているか調査する上ではKPIの見直しが必要のため、R5年度より「女性活躍支援センター利用者及び講座受講者等満足度」に変更する。
	実績からR05年度の事業の方向性	通常の相談業務に加え、令和4年度は、これまでにない10代を対象にした事業を展開することができたため、引き続き、若い世代から性別に関わらず、人生設計について考える機会等を提供できるよう企画する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%		
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援									
小事業	02	地域教育推進事業		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	学校以外での学習支援や居場所づくりが地域の課題としてある。特に小学校低学年は学習支援ばかりでなく同学年の他校の児童と交流することも重要な活動となる。				
	事業目的	(1) 対象 小学校低学年（1年生～3年生）の子ども達 (2) 目的 子ども達は、小学校高学年・中学生と成長するにつれて社会性を身につけ、地域を担う人材として成長していく。 さらに不登校やいじめ、引きこもり等を未然に防ぐ人づくりの場となる。				
	事業概要	地域教育コーディネーターを配置して学校と地域との連携を図り、小学校低学年の児童を主対象に地域資源をいかした地域教育推進事業（楽習ひろば）を実施します。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,565	4,359	4,484	4,251	
	決算額	2,458	2,886	4,473		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	705 / 4,330				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	グループ活動回数	目標値	15	15	12	13	14
		実績値	0	9	15		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	地域教育推進事業「楽習ひろば」 参加者数（年間延べ人数）	目標値	5000	5000	3000	3500	3800
		実績値	2991	2757	4350		



実 績	実 績	生涯学習センター教室 延べ参加者数 1,842人 加茂野交流センター教室 延べ参加者数 1,252人 牧野交流センター教室 延べ参加者数 1,256人 参加者合計 4,350人 地域学習...読み聞かせ、昔遊び、座禅、茶道等の地域ボランティア団体を講師に迎えた活動。 校外学習...アクアトト、名古屋市科学館、瑞浪市化石博物館、サイエンスワールド等施設での見学、体験学習。
	効 果	年間に多くの子どもたちが参加して、同学年の他校の児童と交流することができ、社交性や行動力を養うことができた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍であったが、このため、校外学習としてのグループ活動を実施することができた。残念ながら罹患して参加できなかった子どもたちもいたが、校外学習は実施できた。内容も多彩で、名古屋市科学館、化石発掘など魅力的な事業のため、参加率も高かった。今後も充実した事業を実施する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍であったが、令和3年度のように活動中止がなく、順調に事業を進めることができた。この結果、参加者数は令和3年度と比べると倍近くの参加者があった。なお、会場によっては人数が少ない会場があるため、参加者数を増やしていきたい。
	実績からR05年度の 事業の方向性	引き続き地域教育コーディネーターを配置して学校と地域との連携を図り、小学校低学年の児童を主対象に地域資源をいかした地域教育推進事業（楽習ひろば）を実施する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費		05	社会教育費		01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）					目標値	500人	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合						40.0%	
小事業	04	ふるさと検定事業		目標年度	令和6年度							



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	市民がふるさとに誇りをもってまちづくり活動への参加や将来の美濃加茂の発展につなぐための施策が必要である。ふるさとの歴史、文化、風土などについて学ぶことを小学生から大人まで参加することでふるさとである美濃加茂への愛着を深めることができる。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） ・小学生を主たる対象とした市民 ・美濃加茂市に興味・関心のある市外の人 （２）目的（事業を行うことで、解決すべき課題がどのように改善されるのか） ・市民）総合戦略に掲げる「ふるさと教育」の促進。ふるさと美濃加茂に親しみや関心をもつ市民が育まれ、美濃加茂を愛し、地域の未来を担う人財の育成につながる。 ・市外住民）美濃加茂についての興味や関心を深め、関係人口の増加に寄与する。				
	事業概要	小学生（３年生～６年生）を主たる対象として、ふるさと検定事業を展開することによって、みのかもを愛する、地域の未来を担う人財を育む人づくり事業。 ・WEB版ふるさと検定ページの更新・運営 ・ふるさと検定ドリルの配布（小学３年生に社会科副読本と合わせて配布する）				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	535	335	527	412	
	決算額	306	194	300		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	34 / 0				

実 績	実績	・WEB版ふるさと検定ホームページアクセス数等 ・訪問件数：1,252件 うち、検定問題への訪問件数：346件 ・閲覧件数：2,459件 ・ふるさと検定ドリル（副読本）配布：650部
	効果	ふるさと検定ドリルを配布した市内小学校にアンケートを取ったところ、３年生から始まる社会や総合的な学習で学ぶ情報が多く掲載されており、クイズ形式であることから児童が非常に興味を持って参加することができた、また、検定ドリルの配布がWEB上でふるさと検定チャレンジに繋がった、との回答があった。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	ふるさと検定ドリル配布者数＋ふるさと検定イベント参加者数	目標値	700	700	700	700
		実績値	690	600	664	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	WEB版ふるさと検定挑戦者数	目標値	700	800	900	1000
		実績値	802	1030	346	

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ふるさと検定ドリルについては予定どおり。 ふるさと検定イベントについては、コロナ禍のため密になるイベントが開催できず、目標が未達成となった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	検定問題が更新されておらず、内容がマンネリ化していることが目標値に達しなかった要因と思われる。
	実績からR05年度の 事業の方向性	市民に限らず広く挑戦してもらえようWEB検定問題を更新する。 市内の小学３年生に配布するドリルを図書館来館者にもお渡しできるように増刷し、それをきっかけとしてWEB版ふるさと検定への挑戦者を増加させる。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%		
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を									
小事業	01	生涯学習活動推進事業		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	生涯学習機会の充実をはかることによって市民の学習欲求を満し、市民の皆さんが生きがいを持って暮らしたり、自己の知識や技術を地域に還元したりできる「生涯学習社会」の構築の機会が必要とされている。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 市民 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 生涯学習機会の充実をはかることによって市民の学習欲求を満たすことができ、市民の皆さんが生きがいを持って暮らしたり、自己の知識や技術を地域に還元したりできる「生涯学習社会」の構築を目指す。				
	事業概要	市民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、市民が自分の知識技術を活かし企画運営を主体的に行う「市民企画講座」、行政から市民まで広く講師が地域や暮らしに役立つことを伝える「まちづくり出前講座」、交流センターが地域住民に生涯学習機会を提供する「センター講座」を企画・実施します。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	2,850 77	2,690 685	2,671 968	2,748	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,008 / 358				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	生涯学習施設開催講座数	目標値	110	60	60	60
		実績値	0	54	48	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	生涯学習施設開催事業参加者数（生涯学習センター分）	目標値	9000	1500	1500	8000
		実績値	2992	1146	2128	



実 績	実 績	・市民企画講座（48講座、2128人） ・まちづくり出前講座（86講座、2146人） ・交流センター講座（実施なし） ・土曜映画会（11会場、365人） ・ファミリーシネマの夕べ（9会場、105人） 合計4,744人
	効 果	新しいことを学びたいという市民の気持ちと自らの持つ知識を地域の生涯学習に生かしたいという講師等の希望を実現する場を作ることができたことで、市民の生活の中での生きがいづくりに効果があった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	市民講師の講座を48講座と多くの多彩な開催することができた。講師のみなさんも意欲的に取り組んでいただいた。応募人数が少なく、開講できなかった講座が11講座あったので、今後は全ての講座を開催できるようにしたい。 コロナ禍で減少した講座の数も臨時休館等がなく、少しずつ元の生活が戻り、実施可能となった。今後はコロナ禍前の状態に戻すように努力する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	2128人の受講者があり、目標の人数を大きく上回ることができた。魅力的な講座があり、参加者を抽選する講座も複数あった。講座の内容が良かったことによると考えられる。今後も魅力的な講座を開講していきたい。 コロナ禍で減少した講座の数も臨時休館等がなく、少しずつ元の生活が戻り、実施可能となった。今後はコロナ禍前の状態に戻すように努力する。 目標値を超えたためR5年度以降の目標値を再設定した。
	実績からR5年度の 事業の方向性	生涯学習センターを市民の学びの会場として、多くの講座を開催し、交流する場としていきたい。 コロナ禍の終息を見越し、市民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、様々な講座等を企画・実施する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%
小事業	04	若者活躍事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化である現在、若者が地域に関わる機会も少なくなっている中、若者が地域に役割を持ち、また若者の視点で地域課題の解決に取り組む機会をつくることは、若者が美濃加茂市に住み続け、またふるさとを愛する心を育むことに繋がり、未来の美濃加茂市を作るうえで非常に重要である。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 青少年（小学生・中学生・高校生）、20代を中心とした青年層 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 市民との協働による青少年健全育成活動を進めるとともに、若者の視野を広げ、新たな視点と主体的に行動するきっかけを提供する。				
	事業概要	青少年の健全育成を進めるために各組織の連携を図りながら事業を実施します。 ・市民会議：少年の主張美濃加茂大会（6月）、青少年健全育成街頭啓発（7月・11月）、みのかもの子どもをたくましく育てるつどい（11月） ・少年センター：定期補導、夏休み特別補導、夏祭り特別補導 ・子ども会：チャレラン、子ども会のつどい、キャンプ、クリスマス会、ジュニアリーダーズクラブ ・成人式：新成人による実行委員会が成人式を計画運営 ・地域活性化スクール：フィールドワークやワークショップを通して、若者に新たな気付きや学びのフィールドを提供。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	6,387	6,426	8,011	5,367	
	決算額	5,393	5,267	7,104		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	800 / 0				

アウト プット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	青少年育成市民会議主催事業への参加者数	目標値	600	600	600	
		実績値	30	20	95	

アウト カム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	青少年育成関係事業に関わった人数	目標値	2300	2300	2300	
		実績値	213	1115	1182	



実 績	実績	市民会議：少年の主張美濃加茂大会、街頭啓発（２回）、たくましく育てるつどい 少年センター：巡回補導（定期、夏休み、夏祭り） 子ども会：アドベンチャーキャンプ、ドッチビー交流会、クリスマス会 地域活性化スクール、成人式、里山STEAM
	効果	市民会議主催行事を通して、若者の健全な成長を地域で支える意識を広げることができた。 さらに若者自身が地域住民や市職員と関わりながら地域課題の解決に取り組む活動を支援し、また、市内の子どもたち同士が交流する機会を作ること、若者が地域に関心を持ち、積極的に地域と関わるようになった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	事業は開催したものの、新型コロナの影響で会場への入場者を制限したことで目標値を大きく下回った。 若者活躍事業を「若者活躍推進事業」と「青少年健全育成推進事業」に分割したため活動指標とKPIをR5年度から変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	3年度まで中止していた事業も含めて多くの事業を開催できたが、会場の人数制限や新型コロナ予防のための自粛などは続いており目標は達成できなかった。ただし、事業は開催できるようになっていることから、今後はさらに人数の増加が期待できる。 若者活躍事業を「若者活躍推進事業」と「青少年健全育成推進事業」に分割したため活動指標とKPIをR5年度から変更する。
	実績からR05年度の事業の方向性	若者の活躍を通したひとづくりを推進するため、若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援します。 ・成人式の開催及び実行委員会の活動支援 ・地域活性化スクールの運営及び高校生の活動支援 フィールドワークやワークショップを通して、若者に新たな気付きや学びのフィールドを提供するもの。 ・里山STEAM事業 若者を対象に、里山をテーマとしたSTEAM教育を展開する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費		01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を								
小事業	06	大学との連携推進事業			目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	若者の市外への流出が問題となっており、魅力あるまちづくりが課題となっている。魅力あるまちづくりへの課題解決には当事者（市民・職員）以外の視点として大学等と連携することが必要となっている。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） ・大学、市内外に居住する大学生及び市民 （２）目的（事業を行うことで、解決すべき課題がどのように改善されるのか） ・美濃加茂市を訪れる大学生の流れを生み出し、若者の交流人口・関係人口を拡大する。 ・大学の知見を活かした地域課題の解決を進められる。 ・まちづくりにかかる課題解決、利点発展の新しい気づきを市民らが得ることができる。				
	事業概要	さまざまな地域課題を解決するため、首都圏及び地域の大学（早稲田大学、名城大学、中部学院大学、岐阜大学、東海学院大学など）との連携事業や東京大学の学生を中心に「みのかもわーきんぐホリデー」の事業を実施。大学の持つ学術資源や大学生の柔軟な発想を活用した地域課題の解決に向けた事業を行う。 美濃加茂市を訪れる大学生の流れを生み出し、若者の交流・関係人口を拡大する仕組みとして、市内宿泊施設を利用した大学生に対する補助金を交付する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,828	1,628	1,628	1,592	
	決算額	218	874	1,202		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	100 / 0				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	大学及び学生からの提案実現実績	目標値	3	2	2	3	3
		実績値	5	2	2		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	大学機関及び学生との連携事業数	目標値	4	4	4	6	6
		実績値	8	5	4		



実 績	実 績	岐阜大学：地域協学センター事業への参加（ひとづくり課・まちづくり課） 東京大学：みのかもわーきんぐホリデー事業の実施（参加者4名） 中部学院大学：木育の実施（こども未来課）・講師派遣（農林課） 交流学生支援事業：1名の宿泊補助
	効 果	市民生活の課題やニーズを大学の高等教育機関により調査研究し、社会貢献によって課題解決や再認識することができた。 学生が大学連携事業により提案したことを担当課が取り入れて事業を行った。 また、学生が市内で活動することで美濃加茂市に対する親しみをを感じるなど市内への就職を検討するようになっている。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	木育と多文化共生で提案された2事業は実際に市が学生の提案を実施することができた。学生や市民のそれぞれにとっても有意義な活動となった。 ・多文化交流事業について地域での外国人理解、交流を提案（みのかもわーきんぐホリデー）。 ・木のおもちゃにリユース活動を通してSDGsに繋がるおもちゃの循環を提案（中部学院大学）。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	岐阜大学との連携では月に1度のセンター会議で各市町村との交流や最新の動向を聞くことができ、有効な連携となった。中部学院大学の木育事業では企画から実施まで細やかな関係を築くことができた。東京大学の事業では、多文化共生事業の提案があり、一部を実施することができた。 市内に訪れる学生が多くなり、交流人口が増加し、連携事業を行うことができた。
	実績からR05年度の 事業の方向性	コロナ禍の影響が薄まる中で事業の拡大するため、事業前年度から庁内各課に大学と連携して活動したい課題など広く募集している。大学の持つ学術資源や大学生の柔軟な発想を活用した地域課題の解決に向けた事業を行っていく。